

坂道愛好会の活動の記事掲載

県立博物館蔵

学び最前線

取手の坂道愛好会

気ままに散策、命名に知恵



木々に囲まれた坂道を散策する酒井さん(右から3人目)ら取手の坂道愛好会のメンバー(取手市寺田)

取手市は坂が多い街だ。例えば取手駅からは、西口を出ても東口を出ても真つすくなり坂が始まる。

そんな坂道を調べ、歩くことを通じて街をよく知ろうと、「取手の坂道愛好会」は03年に結成された。もとは合唱仲間らで、多くは元企業戦士。現在、メンバー12人は仕事の一線から退き、気ままに散策を楽しんでいる。

5月末のある日、坂道に連れて行ってもらった。メンバーの多くが気に入っている同市寺田の短い坂道だ。カッコウがさえずり、ウシガエルが低く鳴く。

「どうですか、風情があるでしょう」。代表の酒井達夫

さん(69)が満面の笑みで同意を求めてくる。坂道はうっそうとした未開発の雑木林や谷津田のヨシに囲まれ、国道294号から数十メートルしか離れていないとは思えない、自然に調和した道だった。

会が市内で「発掘」した坂道は約400カ所。以前は坂道の定義づけも考えた。「分度器を持って歩いたこともありません」と酒井さん。結局、周囲の景観や風情を考へ、メンバーが坂道と認めれば、どんなに短くどんなに緩やかでも坂道とした。逆に、傾斜があってもコンクリートで固められたような趣のない道は認めない。

メンバーは坂道を歩きながら、その地域の地誌を当たり、地元の人たちからの聞き取りをする。12人が地区を分担して調べ上げ、例会で報告したり互いに案内したりする。市民向けの散策ルート作

りも手がけ、年一回、取手駅の東西を結ぶ連絡通路で研究成果を発表している。

坂道の大半は名前がないため、命名も会の目的の一つだ。これまで取手駅に近い3カ所に名前をつけ、市の補助や取手ライオンズクラブの支援を得て道標を建てた。

その一つ、駅から取手一高に向かう坂は「雁耕坂」と名付けた。地名にはないが、同校がある高台が昔から雁耕台と呼ばれ、同校の文化祭が雁耕祭と呼ばれることなどが根拠になった。地域住民のアンケートでも高く支持された。

メンバーの1人、根本凡さん(71)は「この会にいなければほとんどの坂は歩くことがなかったでしょうね」と話す。メンバーたちはこれから、一見なんの変哲もない坂に風情や安らぎを見いだし、命名に知恵を絞っていく。

(高木潔)